

星稜 サ・エ・ラ

seiryo ça et là 2013 No.28

inaokigakuen news letter



巻頭

新年度 ごあいさつ

特集

星稜スポーツのDNA

星稜教職員バトンメッセージ

星稜アレコレ

Amitié Seiryō ～星稜の友～

『親業』支援コラム「オトナのミカタ」

総合研究所・地域連携センターだより

星稜 Information

各設置校で卒業・卒園式
それぞれの
新しいステージへ!

新年度 ごあいさつ



心地よい風と眠っていた草木が鮮やかに芽吹く季節の訪れとともに、この4月より大学、短期大学部、高校、中学校、両幼稚園にて新しい生活を始められる皆さまを心より歓迎いたします。各設置校にて、皆さまがこれから生活される大切な時間を希望に満ち溢れ、より充実したものにできるよう、教職員一同とともに努めてまいります。

昨年、学校法人稲置学園は創立80周年を迎え、様々な記念事業を行うにあたり、多くの皆さまよりご支援とご協力を賜りましたことを心から感謝申し上げます。

各事業を通して、地域や世代を越えた「星稜の絆」を深く感じるとともに、学園が目指す未来への大きな礎となる年となりました。

学園の建学の精神である「誠実にして社会に役立つ人間の育成」を主軸と据え、総合学園の強みを活かした連携にて「星稜の人間教育」を実践し、より良い教育環境と新しい「星稜」を作り上げ、次の90年、更には100年へ向けての一步を強く、そして確実に歩み始めます。

学校法人稲置学園理事長 稲置 美弥子



星稜スポーツの DNA

TOPIC ① プレ星稜スポーツデー実施!

TOPIC ② 「星稜スポーツ」発刊!



TOPIC ①

プレ星稜スポーツデー実施!

稲置学園80周年記念事業のひとつとして、昨年10月に開催される予定だった「星稜スポーツデー」。諸般の事情により順延となりましたが、1月23日(水)に「プレ星稜スポーツデー」として実施されました。

指導者3人が語る

星稜スポーツの

これまでとこれから

昨年に創立80周年を迎えた稲置学園「星稜」の教育とその歴史は、スポーツを抜きにして語ることはできません。80周年を機に星稜スポーツのこれまでの軌跡を振り返り、またこれからの時代にどうあるべきかをあらためて考える「プレ星稜スポーツデー」が実施されました。

星稜中学校および星稜高等学校Pコースの生徒、金沢星稜大学人間科学部スポーツ学科の学生と学園教職員を中心とした聴衆で会場の大講義室が埋まる中、壇上にあがったのは、星稜高校野球部名誉監督・山下智茂学園理事、同サッカー部監督・河崎護教頭、金沢星稜大学陸上競技部部長・大森重宜人間科学部教授の3名。テレビ金沢のアナウンサー田中憲行氏の司会で、「星稜スポーツのDNA」のテーマでトークが行われました。以下は、その内容の抜粋です。

「人を育てる」という原点を守り続けるのが星稜スポーツ

司会:これまで、野球の大リーガーやサッカー日本代表選手、さまざまな競技の五輪選手な

ど、多くの人材を輩出してきた星稜スポーツ。

しかし星稜スポーツの目的は、単に強い選手を育てることではなく「人を育てる」ことにあります。星稜スポーツの時代を築いてきた指導者として、皆さんのお考えを聞かせてください。

河崎護 星稜高校サッカー部監督(以下河崎):私が指導者として、もともと影響を受けたのは山下監督なんです。星稜高校出身の私は、高校時代から山下先生の姿を見ていました。将来はこういう指導者になりたいと憧れていましたね。

山下智茂 星稜高校野球部名誉監督(以下山下):監督になったのは、勝つ野球、甲子園に行けばいいという野球をやっていました。ところが昭和60年代にスランプに陥って、そういう野球を捨てようと考えたんです。原点に帰って「人を育てる野球」をしよう。ちょうどその頃河崎先生と海外旅行に行きましてね。それがスランプ脱出のきっかけでしたね。

河崎:その頃はサッカー部も勝てなくて、行き詰まっていたら山下先生に旅行に誘われて、日常を離れた海外で、指導者の原点について



山下智茂(星稜高校野球部名誉監督・学園理事)



河崎 謙 (星稜高等学校サッカー部監督・教頭)

話し合いました。そこから帰ってきたら、次の年は勝つことができました。野球部も甲子園に行きましたね。

大森重宜 金沢星稜大学陸上競技部部長(以下大森) 私もナショナルチームなどで他の指導者と話す機会が多いのですが、競技が違っても共通の悩みを持っているものです。指導者同士で話しているいろいろな発見があつておもしろいですよね。

松井秀喜氏、本田圭佑選手の高校時代を振り返って

司会 さて、星稜スポーツOBの象徴として、よく話題になるのが松井秀喜さんと本田圭佑選手です。お二人が高校在学当時のお話を聞かせてください。

山下 先ほど話した「人を育てる野球」を始めた頃に松井秀喜君と出会いました。当初彼に何度も教えたのは「おごるな、いばるな、あせるな、迷うな」という言葉や、「スポーツマンシップとは何か」ということでした。野球の技術だけではなく、人としての心を伝えてきましたね。

河崎 高校時代の本田選手は、とても明るい生徒でした。先輩後輩分け隔てなく話し、チーム

内に和の空気を作ってくれました。一方で、常にサッカーのことを考え、サッカー中心に自分の生活すべてを組み立てていましたね。

山下 本田君は私の授業を受けてはいませんでした。毎日いろいろなことを聞きにきていましたよ。「松井さんはどうやって人間性を身につけたんですか？」とかね。勉強熱心で素直な生徒でした。夢に挑戦する人というのはみんなそうですよね。

司会 星稜からはこれまで8名の選手がオリンピックに出場しており、大森教授はその最初の一人ですね。世界で戦える選手に共通点はあるのでしょうか？

大森 松井さんも本田選手もそうだったと思いますが、どれだけ早い段階から世界を目指せたのが大事なのだと思います。スポーツは短期間で成長できるものではなく、伸びる期間は決まっています。世界一を目指すなら、最初から世界を意識しなくてはなりません。今、私たち指導者に求められるのはその土壌を作ること。金沢星稜大学は上海体育学院との提携をスタートしました。また、現在杉林孝法准教授がJOCスポーツ指導者海外研修でスウェーデンへ留学しています。これも世界を目指す環境づくりのひとつですね。

**世界へと羽ばたいていく
星稜スポーツのこれから**

司会 星稜スポーツのこれから、指導者としてのこれからについてのお考えを聞かせてください。

河崎 競技者としての基本は、自分をどう成長させるかです。しかし、個だけが強いチームは結果が出ません。チームとしての結果を目指し、自分と周囲を生かす方法を考えなければならず、技術だけではなく心、人間力が必要になります。これからのそういう指導をしたいと思っています。



大森重宜 (金沢星稜大学陸上競技部部長・人間科学部教授)

山下 スポーツを取り巻く環境が変わってきて、技術のみが重要視される風潮はますます顕著になっています。今、技術を教える指導者は多いですが、心を育てる指導者は少ないですね。だからこそ、星稜スポーツの価値を守り続けることが大切なのではないでしょうか。

大森 スポーツは、宗教も経済も政治も越える、残された数少ない世界共通のルール。星稜のスポーツは強い、あの大会で優勝した、というレベルではなく、世界のスポーツを牽引していく人を育てていく学園でありたいですね。

**星稜スピリッツを共有する
「星稜スポーツビジョン宣言」**

第一部のフォーラム終了後、第二部には稲置慎也創立80周年記念事業企画実行委員長による「星稜スポーツビジョン宣言」が行われました。

稲置委員長は、20年後の2032年に100周年を迎えた稲置学園と「星稜スポーツ」のさまざまな活動を思い描いたのち、スポーツの持つ力と星稜の人間教育を融合させ、挑戦する勇気とアイデアを尊重する誠実さをあわせ持った、星稜スピリッツにあふれたスポーツマンを育てることを誓い、星稜スポーツビジョンを宣言しました。

星稜スポーツビジョン

《星稜スポーツビジョン100》

必要とされる施策

- ①人材配置 ②施設整備
- ③組織体制構築 ④情報発信

(競技力向上)

星稜スポーツ
スピリッツ

(スポーツ振興)

(地域貢献)

星稜スポーツ
スピリッツの共有

- (1) 星稜スポーツへの誇り
- (2) スポーツを通じた人格の陶冶
- (3) 星稜スポーツを支える方への感謝と地域社会への貢献

全国、世界で戦う
競技力向上施策

- (1) 中学から大学までの一貫指導体制の構築
- (2) 国内外のトップスポーツ組織との連携強化
- (3) 科学、経済、キャリア等、支援体制の構築

学園内の
スポーツ振興施策

- (1) 幼大連携プログラム等、こどもの体力向上施策の展開
- (2) 教職員の健康づくり(運動実施率向上など) 施策の展開
- (3) 部活参加者以外の生徒、学生へのスポーツ機会の提供

星稜スポーツの
地域貢献施策

- (1) 周辺地域の住民を対象としたスポーツ教室
- (2) スポーツ指導に携わるOB&OGのネットワーク化
- (3) 地域スポーツ団体、行政へのボランティア、調査・提言

星稜スポーツ発刊!

ブレ星稜スポーツデーと同日、SEIRYO JUMP PROJECT「スポーツマネジメント・ラボ」の企画・編集による金沢星稜大学のスポーツ新聞「星稜スポーツ」創刊号が発刊されました。編集に携わった学生の代表者2名と、その活動を指導・支援した2名の教員にお話をうかがいました。

独自の新聞発行で大学を活性化

田島良輝 准教授(以下 田島)「『スポーツマネジメント・ラボ』では、スポーツを通して何かおもしろいことをしていこうと、毎年さまざまな活動をしています。今回、星稜オリジナルのスポーツ新聞を発刊することで、部活をやっている人



左から、神野賢治(金沢星稜大学人間科学部 講師)、岩倉麻美さん(金沢星稜大学人間科学部スポーツ学科2年次)、北村弥生さん(金沢星稜大学人間科学部スポーツ学科1年次)、田島良輝(金沢星稜大学人間科学部 准教授)



ミーティングの様子(於:報知新聞社東京本社)

大学内外の方々と やりとりが成長の糧に

田島「ジャンプチャレンジ企画として大学に採択され、実際に活動が始まると、学生たちは自発的、積極的に動いてくれました。今回協力してくださった報知新聞社や他大学とのコネクションも、学生が進んで広がっていったんです。

ただでなくすべての学生も巻き込んで大学を活性化できるのではないかと考えたんです。

神野賢治 専任講師(以下 神野)「これまで大学外のいろいろな人や組織と連携して活動してきましたが、考えてみれば自分たちの大学のスポーツ活動についてあまり知らないという意見が出ました。それで、都市部の私立大学では事例もある、独自のスポーツ新聞を作ってみようという話になりました。

岩倉麻美さん(以下 岩倉)「他大学が発行している新聞を見て、その本格的な作りに驚きました。最初はどこから手をつけていいのかわかりませんでした。

北村弥生さん(以下 北村)「私は入学したばかりで、この大学のスポーツについてよく知りませんでした。不安でしたが、一方でこの新聞ができれば自分も他の学生も星稜のスポーツについて知る良い機会になると思いました。

達成感と周囲の反応が 次へのステップ

岩倉「取材も編集もすべて初めての経験。特に新聞社の方とのやりとりは、遠隔地だということもあってこちらの思いをうまく伝えられずにととても苦労しました。

北村「東京の国立競技場への取材にあわせ、新聞を発行している大学の編集部からお話をうかがうことにしたんです。初対面の人にアポイントを取ったり、取材をしたり、そういう新しい経験はとても勉強になりましたね。

田島「この活動を通して、学生たちに得てほしかったことがふたつあります。ひとつはおもしろいものや伝えたいことをいつも探す姿勢。もうひとつは、それを形にするために何をすればいいのかを考え、実行するマネジメント力です。

神野「私は、「こたわる力」ですね。複数の人と一緒にものを作っていれば、思い通りにいかないことも多い。そこでめげずにいいものを作ろうと粘る力を学んでくれたらと考えていました。できあがった新聞を見た時には、その力を見せてくれたと感動しました。

岩倉「編集はとても大変でしたが、新聞の刷り上がりを見た時にはとても達成感を感じました。配布が始まると「すごい!」と言ってくれる人が多くて。今回の経験を活かして、これから発行を続けていきたいです。

北村「自分たちが作った新聞に「出たい!」と言ってもらえたのが嬉しかったです。今回は学内のみでしたが、今後は学外にも配布して、より多くの人に星稜のスポーツを知ってもらえたらと思っています。

さまざまな苦勞を乗り越えて完成した、学生たちによる自信作。「星稜スポーツ」の創刊号は金沢星稜大学キャンパス内で配布しています。ぜひ手にとって、ご覧ください。

英語は、 夢をかなえる 手段です。

星稜中学校・星稜高等学校

マツダ・デビッド 講師(英語担当)



**まず英語を好きになる
楽しみながら学ぶことが大切**

星稜では中学、高校、大学でクラスを担当しています。特に中学生は英語の基礎を学ぶ重要な時期。ゲームや遊びを取り入れながら、楽しく会話ができるように心がけています。

一方で大学では、中学・高校で身に付けた語彙を生かし、より自己表現に重点を置いた授業をします。休日の過ごし方や将来の夢など身近なテーマで話し合い、コミュニケーション能力を育てています。

どのクラスでも私が大切にしたいのは、まず英語を好きになってもらうこと。どんな学問も好きになってこそ、吸収も早いと思うんです。

企業における英語の公用語化は、こ



いろいろな世代に英語を教えてきましたが、中高生は初めて。彼らとの交流はとても楽しいです。

れからも進むでしょう。星稜で学ぶ彼らが社会で活躍する頃には、今以上に重要なツールになると思います。「もっと勉強すれば良かった」と後悔しないよう、課題に一生懸命取り組んでほしいです。

また、生徒に伝えたいのは、英語は受験科目ではなく生きた言語だということ。英文でも正解は一つではありません。日本の英語教育は受験にクロージアアップし過ぎているため、教科書の例文は言っても自分の言葉で伝えられない人が多い。もし、センター試験で会話が導入されたら、日本人の表現力はものすごく上達すると思いますね。

英語を学ぶことは

自分と世界の多様性を知ること

私はアメリカのシアトル出身です。日系四世ということもあり、日本には自然と興味を持つようになりました。趣味の空手も日本に触れたくて始めました。大学の時に交換留学で初来日し、さらに日本が好きになりました。

日本語を勉強してきた私自身が思うのは、外国語を学ぶことは、異文化を理解しようとする行為。私の妻は金沢生まれの日本人ですが、普段の生活で習慣の違いを感じる時があります。例えば、私の表現はストレートになり過ぎるらしく、よく注意されています(笑)。

他文化を知ることは、同時に自身のルーツや文化を学ぶことでもあります。今、娘が2歳半なんですけど、日米両方

の文化に家の中で触れられるのは、世界の多様性を知る上で彼女にとってすごく良いことだと感じています。

英語は夢をかなえる手段でもありません。私自身、日本語を勉強していません。たら、日本に来て多くの人に出会うことも、こうして星稜で教師をすることでもなかった。英語を話せたら、より広い世界に行くことができるんです。

生徒の皆さんに贈りたい言葉は、「Concentrate on the now.」(今の時に集中しよう)。学生時代は本当にあっという間です。将来を見据えて頑張ることも大事ですが、大切なのは今。勉強も遊びも、目の前の瞬間を感じながら思いきり楽しんでいただきたいですね。



中学テニス部の顧問を担当。
授業以外でも積極的に生徒とふれあうようにしています。

高校サッカー応援ありがとう！

第91回全国高校サッカー選手権大会に石川県代表として出場したサッカー部が、第3位に輝きました。全国の頂点まであと一歩と迫った試合に、大勢の方々からご声援をいただきました。
本校の歴史に残る快挙とともに、夢と勇気と感動が残りました。



写真提供：北陸中日新聞



★学内でファッションショー！

12月20日(木)、本学キャリアデザイン館1階の多目的階段教室で来年度の成人式、今年の卒業生向けの「振袖・袴のファッションショー」が開催されました。本学に在学中の女子学生5名がモデルとなり、色とりどりの衣装を着て、観客を魅了しました。



★留学生スピーチコンテスト開催

1月25日(金)、学内で毎年恒例の留学生スピーチコンテストが開催されました。学部生から科目等履修生まで計7名がスピーチを行い、日本の文化や社会、そして私生活まで幅広い内容でスピーチを行いました。留学生は少し緊張した表情でしたが、話し始めると流ちょうな日本語と説得力のある言葉で、審査員も圧倒されました。留学生のみなさん、これから

もっと日本を知り、勉学に励んでください。



★日本代表選手紹介！

本学に在学する浦田昌伍さん(経済学部1年次)はなんと、車椅子バスケットボールU-21日本代表選手なのです。現在は富山県のクラブチームに所属していますが、代表試合になるとJAPANの背番号5番となり、世界各国のチームと対戦しています。昨年末にもクウェートで開催された国際車椅子バスケットボール大会に出場しました。結果、浦田さんの活躍もあり、日本は見事優勝に輝きました。今年も代表に選出されると、来夏にトルコで行われる世界選手権への出場が決まります。



★こども学科主催♪ピアノおさらい会

2月4日(月)、稲置記念館5階講堂において、こども学科1年次によるピアノおさらい会が開催されました。総勢59名の「器楽Ⅱ」履修者が1名ずつ、ステージに立ち、授業で習ったバイエルや自分で選曲したクラシックを演奏しました。履修者のうち、約7割の学生は昨年4月の段階でまったくピアノを触ったことのない状況でしたが、日々の練習からみるみる上達し、経験者と肩を並べて演奏できるようになりました。会場にはこども学科の先輩や家族の方々も見え、学生達が奏でる音色に耳を傾けていました。



★「保護者のための就職ガイダンス」を実施

2月10日(日)、1～3年次の保護者約230名が参加され、「親子シューカツ」と題して「保護者のための就職ガイダンス」が行われました。午前中は、今どきの就活事情や就活を無事終えた4年次体験談を聴講され、午後からは同時進行で行われていた会社説明会にも参加いただき、採用企業の生の声をお聞きいただきました。これからは保護者のご子息への「願い」に沿えることができるよう、大学は進路支援・サポートを続けて参ります。



★就職ガイダンス開始!

短大の就職率(卒業生全体に対する就職者の数)は過去3年間をみると年々上昇しています。次年度以降も上昇していけるよう、今年度から早い段階から細やかな内容で就職ガイダンスを行っています。2～3月にかけて全10回を予定しており、リクナビなどの就職サイトの使い方から面接対策といった実践的な対策までみっちり

行っています。進路支援センターが短大生の就活を全力でバックアップしていきます!



★スノーボード実習 in 梅池高原

1月5日(土)～1月7日(月)の2泊3日でスノーボード実習が行われました。実習は長野県梅池高原スキー場で開催され、女子学生14名が参加し、晴天の中、スノーボードを満喫しました。参加学生のほとんどが初心者でしたが、初日にスキー学校で2時間レッスンを受講したことにより、最終日には全員が滑れるようになり、ケガもなく楽しいひと時をゲレンデの上で過ごしました!



★星短マナーコンテストで新入社員を体験

2月15日(金)、星短マナーコンテストが開催されました。今年で3回目を数えるこのコンテストは、電話応対や応接室への案内や取次、予約を入れた変更したりと日常で想定される業務を、授業で学んだことを活かして楽しみながらロールプレイで体験してみようというもの。25名の学生が参加し、星短商事や稲置デパートの新入社員に扮した学生たちに、上司や来客の役に扮した教職員が来客への応対やちよつと困ったお願いを名演技で迫りました。また、浴衣の畳み方や、美しい姿勢とおじぎ、取引先へのお礼状の作成などもゲーム形式で競い合いました。頭では分かっているけど、実際にやってみると結構難しいビジネスマナー。これから就活が本格化する1年次にはいい機会になりました。



★Sei-Tan ACT! クリスマスラッピング

12月12日(水)、Sei-Tan ACT! クリスマスラッピングが開催されました。雑貨屋アミシングからスタッフ3名を講師にお招きし、簡単でしかもすごく豪華に見えるラッピングを教えていただきました。学生たちは持ち寄ったプレゼントにきれいなラッピングを施して、交換し合ったりしました。学生も教職員も初めてのラッピングでしたが、かなりの仕上がりに皆満足でした。



★エレガンスアップで星短生の女子力アップ

■知ってる? 着物の畳み方

12月後半のエレガンスアップの講義で、着物の畳み方を学びました。大切な着物は脱いだ後も大切に扱ってきれいに片づけたいもの。普段は茶道部が稽古をしている本格的なお茶室で、本

物の着物を使って練習しました。初めは慣れない様子でしたが、だんだん上達して友達同士で教え合いながらきれいに畳めるようになりました。



■いざという時も大丈夫! テーブルマナー実習

1月18日(金)、1年次全員を対象にテーブルマナー実習を行いました。金沢ニューグランドホテルのフレンチレストラン「ロウ」にて、実際にコース料理をいただきながらスタッフから指導を受け、基本的な作法とその意味も教わりました。少しおしやれをして集った学生たち。優雅なランチタイムとなりました。



★ 高3泊4日の修学旅行

12月4日(火)～7日(金)、1年生がコース別で修学旅行に行きました。団体での見学や体験を通して、クラスメイトとの交流を一層深めた修学旅行でした。

Aコース 東京

1日目は国立科学博物館、東証アローズ、警視庁本部or国会議事堂、浅



草寺・仲見世、東京ソラマチを周り、2日目は東京大学・早稲田大学見学、劇団四季「ライオンキング」観劇、3日目は東京ディズニーシー、4日目は日光東照宮へ行きました。

Bコース 北九州

偶数クラスと奇数クラスに分かれ、偶数クラスの1日目はハウステンボス、2日目はクラス別でジャパネットたかた等の企業見学や柳川川下りなどの体験、3日目は被爆体験者講話の後、平和記念公園と長崎市内の班別行動、4日目は大宰府天満宮へ行きました。奇数クラスはその逆の日程を周りました。



Pコース 沖縄

1日目は美ら海水族館、2日目はマリリン体験とアメリカンビレッジ、3日目はおきなわワールド・平和祈念資料

館見学と平和講話を拝聴し、4日目は首里城へ行きました。



★ 高文化部から 全国大会出場!

1月31日(木)～2月2日(土)、将棋部の松岡静莉香さん(1年)が福岡県北九州市で開催された第21回全国高等学校文化連盟将棋新人大会女子の部に出場しました。3勝すれば決勝トーナメントに進出することができましたが、2勝2敗で144人中57位の成績でした。全国に散らばる強豪と来年も対戦することを誓いました。



★ 高運動部 全国大会出場が続々!

スキー部が2月5日(火)～10日(日)に札幌市で開催された第62回全国高等学校スキー大会、及び2月16日(土)～19日(火)に秋田県鹿角市で開催された第68回国民体育大会冬季スキー競技会に出場しました。また、レスリング部が3月27日(水)～29日(金)に新潟市で開催された第56回全国高等学校選抜レスリング大会に出場、女子テニス部が3月20日(水)～26日(火)に博多で開催された第35回全国選抜高校テニス大会に9年連続27回目の出場となりました。

出場した各部のメンバーは次のとおりです。

(スキー部)

森田昂也(1年)、森本 早香(1年)

上野雅之(3年)、林 真紀(3年)

(レスリング部)

平口満理(3年)

中村優太(1年)、喜多 亮介(1年)

(女子テニス部)

片口 夢(1年)、大町 法重(1年)

今井 未来(1年)、木村優布子(2年)

馬淵 靖子(2年)、中川 愛菜(2年)

平田 奈菜(2年)、齋藤明日香(2年)

能任未奈子(2年)

★ 高2年Pコース スノーボード実習

2月13日(水)～15日(金)、2年Pコースのスノーボード実習が長野県の栂池高原で行われました。運動神経が発達したPコースの生徒たちは、インストラクターからの指導ですぐにボードに慣

れ、滑る度にめきめき上達し、各自思いどおりに滑っていました。雪の光の反射が眩しく、ウェアとゴーグルが汗まみれになった課外実習でした。



★ 高快挙! 偉業達成!

2012(平成24)年度石川県高等学校総合体育大会総合成績において、本校が総合、男子、女子の全部門で4年連続最優秀校に輝きました。総合優勝は37回目、3冠は12回目です。部活動における生徒一人一人の日の努力が認められました。



★ 全学年合同の 体育大会！

12月7日（金）、冬季体育大会が行われました。あいにくの悪天候のため、予定していたクラス対抗駅伝とサッカーが中止となってしまいました。が、体育館でドッジボールやバスケットボール、ソフトバレーボールを楽しましました。1年生から3年生混合のチーム編成で試合に臨み、先輩と力をあわせ後輩を思いやり、お互いに協力することを学びました。3学年がさらに仲良くなった一日でした。



★ 正しい知識を！ 「くすりを学ぶ」 講演会実施

12月15日（土）、全校生徒を対象に、金沢社会保険病院薬剤師の西上潤氏を講師としてお招きし、「くすりを学ぶ」と題して金沢星稜大学の講義室で講演会が行われました。くすりの種類や飲み方、効能など「くすり」にまつわる話を伺いました。最近耳

にするジェネリック医薬品の話など、普段何気なく飲んで「くすり」の実情を学びました。



★ 雪山でスキーを満喫！

2月14日（木）、一里野温泉スキー場で、毎年恒例のスキー教室が行われました。恐る恐るスキーを履きゲレンデに出ましたが、徐々にインストラ



クターの指示どおり滑ることができました。スキーに慣れた頃に帰る時間となり、滑り足りない思いが出が残ったスキー教室でした。

★ スポーツ優秀表彰！

野球部・サッカー部・陸上部が金沢市スポーツ優秀選手として選ばれ、2月26日（火）、金沢市体育協会による表彰式が金沢歌劇座で行われました。金沢市では、スポーツ振興のため昭和43年度から優秀選手の表彰をしているそうです。部活動の栄光をたくさんの方々に祝福していただきました。



★ 1月からの主な 部活動成績

第91回全国高等学校サッカー選手権大会
・第3位

第8回ウィルソンチャレンジカップ
北信越ジュニアテニス団体選手権大会
・女子・優勝

第75回石川県耐寒継走選手権大会
・第2部高校A組

・優勝 福田 裕大、吉野 駆流
川崎 鉄太、田中 寛之

・第3部女子A組
・優勝 廣瀬 亜美、高野みちる
井久保緩奈、橋爪 悠希

・第2部高校A組

・1区 区間賞 福田 裕大
・2区 区間賞 吉野 駆流
・3区 区間賞 川崎 鉄太
・4区 区間賞 田中 寛之

・第3部女子A組

・1区 区間賞 廣瀬 亜美
・2区 区間賞 濱田 優理
・3区 区間賞 岡田 奈巳
・4区 区間賞 橋爪 悠希

平成24年度石川県高等学校総合体育大会
第46回石川県高等学校スキー選手権大会
・男子総合・第2位

・女子総合・優勝

・男子アルペン総合・第2位

・女子アルペン総合・優勝

第25回石川県高校テニス
ダブルス選手権大会

・女子・優勝

木村 優布子
片口 夢

・女子・第2位 齊藤 明日香
中川 愛菜

平成24年度石川県高等学校
新人選抜バレーボール大会

兼第13回北信越高等学校
新人バレーボール大会石川県大会

・男子の部・第3位

・女子の部・第3位

第21回松本旗争奪石川県高等学校
剣道選抜大会

・男子団体・第3位

・女子団体・第3位

第25回石川県高等学校
ヴォーカルアンサンブルコンテスト

・A部門

金賞 橋本明香里、水野 玲奈
秋山 文人、小川 一樹

・B部門

金賞 橋本明香里、二宮 由佳
奥村 夏美、中川 七海

水野 玲奈、瀧澤真樹子

東 愛純、山本 唯

秋山 文人、野澤 佑太

小川 一樹、米澤 聡

第37回石川県書き初めコンクール

入選・土山 葵衣

入選・東野 乃絵





☆一年を振り返って☆

泣いたり、笑ったり、ケンカしたり…。春・夏・秋・冬、一年間いろいろなことがありました。みんな、ひとつ大きくなり、卒園・進級を迎えます。泣き声の合唱だった4月がなつかしいです。また、楽しいことをたくさん見つけていきましょう。



☆ゆきやこんこ☆

雪が降ると、子どもたちは大喜び!! 登園するなり「雪だるま作ろう!」「先生、お外に行こう!」と、すぐに外へ飛び出したい様子。子どもは風の子、元気な子。寒さなんか、ふっとばせ!!



☆ばらっばらっばらっ☆

豆まき会で自分のお腹の中にいる「なきむし鬼」「おこりんぼ鬼」「すききらい鬼」…いろいろな鬼をやっつけました。お昼ごはんには、恵方巻き気分で細巻きをばくり。さらに、お豆屋さんで煎りたての豆をもらって食べましたよ。「鬼はく外 福はく内」はやく春よ来い。



Amitié Seiryō

星稜の友

「Amitié Seiryō」は、フランス語で「星稜の友情」。
今回は、稲置学園と「包括的連携協力に関する協定書」を
締結した、北國銀行の安宅建樹頭取からのごあいさつです。

稲置学園と北國銀行は、
包括的な連携協力を
積極的に進めていきます。

ごあいさつ

皆さまには、平素より北國銀行をお引き立て
いただき、誠にありがとうございます。

昨年12月、学校法人稲置学園さまにとって創
立80周年という節目の年に、私も北國銀行は
「包括的連携協力に関する協定書」を締結させて
いただきました。

稲置学園さまは、稲置理事長のもと「誠実にし
て社会に役立つ人間の育成」を建学の精神とさ
れ、これまで自立心、愛郷心に富んだ人間性豊か
な人材を数多く社会に輩出してこられました。
当行にも現在金沢星稜大学や金沢星稜大学女子
短期大学の卒業生が約100名、星稜高校の
卒業生も含めると約250名の卒業生が様々
な部署で活躍しております。

今回、初等教育から高等教育まで手掛けてお
られる稲置学園さまと地域金融機関である当行
との全く異なる業種のコラボレーションにより、
人材育成・交流活動、産学連携活動等を通して新



しい地域貢献のかたちを提案してまいります。
「連携協力」の内容は広範囲にわたりますが、具
体的には以下のような連携・協力を考えており
ます。

① 人材育成・交流活動

例えば、銀行からは行員に実施しているマ
ナー研修やホスピタリティ研修の提供、或い
は、社会の求める人材、就職に際しての心構え
等就活情報を提供いたします。また、就職活
動に際しては、大学の就職指導担当者や銀行
の採用担当者との意見交換会も実施したいと
思います。

② 学生、生徒及び園児の支援活動

大学や短大には、学生の職業感の醸成、実社会
に出る前の体験の場としてインターン・シッ
プ、銀行見学の機会を提供します。また、高校
や中学、幼稚園にはその年代にあった金融教
育を実施していきます。実社会で役立つ人材
の育成は社会の大きな課題ですが、そのため
の訓練の場を提供いたします。

③ 産学連携活動

当行が架け橋となつて大学と地元企業とのつ
ながりを強化していきます。また、「まちづく
り」「地域の産業振興策」などについての共同
研究・提言を行います。学術的な視点、経営の
現場の視点など様々な視点から見た有効な研
究・提言が行えると思います。

おかげさまで、当行も今年は創立70周年とい
う節目の年を迎えます。この協定締結を機に、さ
らなる地域発展のために必要なこと、できること
を考え実行していきます。

今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜ります
ようよろしくお願い申し上げます。

株式会社北國銀行
取締役頭取 安宅 建樹



夢のそばに。北國教育ローン



青春応援



キャンペーン

平成25年4月30日 火 まで

最高1,000万円

魅力の金利

ゆとりの15年返済

★他金融機関からのお借換えにもご利用いただけます。

くわしくは窓口まで

北國銀行

ナ オ ミ タ の カ ラ



星稜エクステンションセンターの資格取得支援体制

星稜エクステンションセンター課長 友部充洋

専門学校で12年間簿記講師を務め、CDP開設と同時に本学へ。
簿記3級・2級の講義を担当しつつ、受講学生の相談に応じている。

星稜エクステンションセンターの組織について

星稜エクステンションセンターは、学園全体の組織として在学生及び卒業生、保護者や教職員、一般の社会人を対象に、広く生涯学習の場を提供することを目的に、ビジネス社会で役立つ各種資格取得講座の開設、各種検定試験の受験受付、実務講座や教養講座などの公開講座を開講しています。

平成16年度までは、大学の組織として運営し「金沢星稜大学エクステンションセンター」という名称で公開講座を実施し、主に一般の方が参加する市民講座としてスタートしましたが、学生に対する学習環境が整備されておらず、利用者は少ない状況でした。その後、平成17年度、大学にCDP（キャリア・ディベロップメント・プログラム）が始まり、公務員採用試験、税理士試験、教員採用試験について、講座の企画から実施までをエクステンションセンターが担当することとなったため、星稜エクステンションセンターに変更し受験対策を専門に行う組織として変更を行いました。

ねらいは、従来の社会人主体の範囲から金沢星稜大学、星稜女子短期大学（当時）の学生の資格取得支援、並びに星稜高等学校の生徒への講座開講も念頭におき、誰でも利用できるようにさせる目的がありました。その結果、受講者も大学生・短大生を中心に年々増加し、2011年度には延べ2097名が受講しました。（うち学生1565名）

現在は、新しく建設されたキャリアデザイン館3階に事務局があり、5名のスタッフにより、月曜から土曜の課外時間を利用し開講しています。

組織の変更によって変わった環境「勉強する学生の増加」

平成17年度のCDP開設に合わせ、学生が大学の授業やCDPと並行して参加できるよう開講期間や時間の調整、一般の方も学習できるように土日コースの開設、夏期・春学期間にも集中して学習できる講座を作り、自習室（現在はキャリアデザイン館2階）も作り、誰でも学習できる環境を整備しました。

結果として講座利用者も大幅に増え、環境も大きく変わりました。夜間に勉強する姿、夏季・春学期間に勉強する姿も今では珍しくなく、まるで当たり前のようになっています。また簿記や公務員試験の受験勉強をしている学生は、授業時間外の質問、2次試験対策など講座によつてはスタッフがいつでも対応できるため、フォロー体制も充実しています。さらに利用者のうち約50%が1年次の割合であり、早期に、計画的に学習を考える学生が増えており、学習スタイルが浸透しています。

このような取り組みにより、検定試験や採用試験を受験する学生にとつて「学習塾」的存在となっており、学生の質問や対応に追われる毎日です。

CDPにより、合格実績が拡大

CDP（キャリア・ディベロップメント・プログラム）は職業能力開発、職業選択拡大の目的で、平成17年度に設置しました。公務員、税理士、教員といった職業は、採用や合格には難易度の高い試験が課せられ、大学授業だけでは圧倒的に足りないため、通常はダブルスクール（大学と予備校の両方に通学すること）する学生がほとんどです。そのため、時間的、経済的な負担を強いられること、学習環境がない（北陸地域は予備校が少ない）などの理由で、志半ばで諦める学生も多くなりました。

そこで、大学内で講座を開くことで、その問題を解決させました。平成24年度の受講者は500名を超えています。CDPは時間的、経済的負担を軽減し、大学の授業と専門的な学習・試験対策の両立を可能としました。空いた時間を効率よく学習時間に当てることができます。これにより、平成20年度の第1期生から確実に実績を上げ、開設前には就けなかった国家公務員、地方公務員、会計専門職、教員などの職業選択が広がりました。また、基礎学力も向上するため、一般企業の就職試験での筆記対策にも影響を与えています。

CDPの開設は、入学時点より将来の進路変更の可能性も加味し、関連する資格試験等の学習促進につながっています。また、エクステンション専門職員が授業を担当し、授業以外でも受講相談や面接対策、質問に十分対応できる能力を備えていることも学生にとって安心して勉強に専念できることになりました。

「一方、大学開放の一環として公開講座（教養講座）の展開する必要もあり、1回完結型の教養講座（星稜ワンカル講座）を平成18年度より開始しました。ワンコイン（500円）で気軽に参加できジャンルを問わず、すぐに役立つ教養講座を月1回実施しています。

教養講座「星稜ワンコインカルチャー（星稜ワンカル）」の実施

高砂大学校との連携で、高齢化社会の問題を考える

平成19年度より、60歳以上の高齢者を対象とした高砂大学校と連携し「パソコン教室」を実施しています。学生スタッフ数名が補助に入り、個別指導形式でパソコンの基礎レベル（ワード・エクセル・インターネット・デジタル）を行い、高齢者がこれからの情報社会に対応できるよう指導するとともに学生も世代を超えた交流の機会、コミュニケーション能力向上の一環として成長に繋がります。

今後、学生の研究テーマ（高齢化社会）での交流や、お互いの行事参加など学生が積極的に参加したり、陶芸教室などの開講も検討中です。

ますます進化しつづける「学習塾」としてのエクステンションセンター

資格取得支援を積極的に行った結果、「自信がついた」「勉強が習慣化できた」などの意見が多く、早期に様々な職業に対する意識を持つようになっています。

「資格取得」は「目的」ではなく「手段」です。大切なのは取得後どのように活かすか？どのような職業でどう活かされ、どのように関連しているのか？学生は経験が無いイメージしにくいですが、資格試験を目指す上でも学生に投げかけている言葉です。社会人になって初めて気づくことですが「あの時勉強しておけばよかった」という後悔だけはさせたくないと思っています。

これからも、エクステンションセンターは「学習塾」として、社会に役立つ人材育成のために取り組んでまいります。

エクステンションセンター講座に関するお問い合わせ、パンフレットの請求はホームページ又はお電話にてお問い合わせください。
（2013年度開講講座は4月1日より募集を開始します）

星稜エクステンションセンター

キャリアデザイン館3階 TEL076-253-3867
HP <http://ext.seiryu-u.ac.jp/>

総合研究所・ 地域連携センター だより



総合研究所

学術シンポジウム・直江学美准教授

「アドルフ・サルコリからみた

日本の音楽界

—明治から昭和初期を中心に—」を開催

直江学美准教授（人間科学部こども学科）は、日本の西洋音楽の受容において、イタリアオペラが入ってくるきっかけとなったイタリア人テノール歌手アドルフ・サルコリの活動と日本の音楽界におよぼした影響について焦点を当てたシンポジウムを、2月18日に開催しました。

アドルフ・サルコリの研究成果報告に加えて、パネリストに音楽家の蔵西正道氏、東京大学大学院の渡辺裕教授をお迎えし、演奏家、音楽学それぞれの立場から西洋音楽の受容とアドルフ・サルコリの功績について考察を深めました。音楽関係者や多くの地域の方々がシンポジウムに参加し、活発な質疑応答も交わされました。

なお、このシンポジウムと研究は、直江准教授が文部科学省から受けた科学研究費助成事業によるものです。



『奥能登スマート観光プロジェクト』に 大藪教授とゼミ学生が参画

大藪多可志経済学部教授とゼミ学生は、自治体、企業及び大学などの諸団体で組織するICT奥能登「絆」づくり協議会・観光部会のPRプロジェクトに参画し、活動を行っています。

このプロジェクトは、奥能登を中心とした観光スポットを、スマートフォンを活用して文字・音声・動画によりPRします。案内看板の大型化や増加は、世界農業遺産である能登の大切な景観を損ねるおそれがあるため、景観を守りつつスマートな観光を実現させるものです。

大藪教授は当協議会の観光部会長を務め、学生とともにこの産学官連携事業を通じて、奥能登の観光振興に貢献していきます。



星 稜

INFORMATION

株式会社 北國銀行との連携事業がスタートします。

平成24年12月13日（木）、株式会社北國銀行と学校法人稲置学園との包括的連携協力における協定書の調印式が行われました。

本協定は相互の緊密な連携と協力により、教育・研究の推進及び活力ある地域経済の発展並びに地域社会の活性化を図ることを目的とするものです。

今後、様々な連携事業を通して、相互の強み活かしながら地域社会の更なる発展に貢献してまいります。



「地域連携サミットin能登」で 本学取り組みを全国に発信

大学の知と若い人材
力を地域の活性化につ
なげる取り組みを進め
るために、2月8日、9日、珠
洲市で「地域連携サミットin能
登」(総務省、能登キャンパス
構想推進協議会及び大学コン
ソーシアム石川の共催)が開催
され、大学、女子短期大学の部
の教員と学生が参加し、発表を行
いました。当日は地域住民の方
々をはじめ、全国から多数の
関係者が参加しました。

パネラーの方々から高い評価を
受けるとともに、さらなる活動
の充実を期待されました。
9日は大学コンソーシアム石
川が主管する大学・地域連携ア
クティブフォーラム(学生の活
動報告会)が開かれました。本
学の4件を含む県内高等教育
機関の学生から30件の活動につ
いて成果発表があり、その中で、
池田幸應ゼミの「穴水町の里山
里海環境を活かしたスポーツ・
ツーリズム推進策の検討」の活
動が優秀賞を受賞しました。本
学の発表は次のとおり。

■大学・池田幸應ゼミナール
(人間科学部)
「穴水町の里山里海環境を活かしたス
ポーツ・ツーリズム推進策の検討」

■大学・池上 奨ゼミナール
(人間科学部)
「案山子の作成と設置を通じて能文
化の再認識と継承を行い、地域の
共同活動を活発化させるための
取り組み」

■大学・大数多可志ゼミナール
(経済学部)
「北陸新幹線加賀温泉駅整備及び統
合新病院の開業を見据えた加賀市
域交通体系の再構築」

■女子短期大学部・TEAM穴水町
(上田卓爾教授)(経営実務科)
「星短生が女性目線でチェック!
穴水町の観光スポット探点」

「穴水町の観光スポット探点」

8日は「域学連携地域づくり
シンポジウム」が開かれました。
池田幸應人間科学部教授が本学
の地域連携にかかわる取り組み
を、新川同志社大学大学院教授、
牧総務省地域自立応援課長、泉
谷珠洲市長、富樫小樽市産業振
興課主査とのパネルディスカッ
ションを通して報告しました。



駅プラットホームに“絵巻物語”の アートと鉄道駅沿線地域の魅力を発信

池上奨人間科学部教授と美
術部の学生は、能登半島振興
推進協議会が進める能登地域
の鉄道の活性化と観光客のお
もてなし体制の整備事業のひ
とつである、のと鉄道駅のプ
ラットホームを利用した“絵巻
物語”アートの制作に取り組ん
でいます。

能登半島振興推進協議会か
ら委託を受け、2014年の
北陸新幹線金沢開業を見据え

て、のと鉄道駅の周辺地域の
魅力を絵巻物語のアートによ
り発信します。

絵巻物語アートは、駅周辺
地域の歴史や民話・伝承、由
来などをイメージしたもので、
幅1メートル、長さ18メート
ルのサイズになります。のと
鉄道全6駅のものを、調査等
を含め平成24年度から3年間
で制作します。



「星稜サ・エ・ラ」読者アンケートにご協力ください。

今号には、「星稜サ・エ・ラ」読者アンケートを同封していますので、皆様のご意見ご感想を
お寄せください。いただきましたご意見は今後の内容改善に活かしてまいります。アンケート
にご回答いただきました方、先着100名様に図書カード(500円分)をプレゼントいたします。ご協力をよろしくお願いいたします。

先着100名様に
図書カード(500円分)をプレゼント!

行事スケジュール (4月～6月)

金沢星稜大学

4	1日(月)	入学式
	2日(火)	入学前テスト追試験(欠席者対象)、1年次健康診断
	3日(水)	新入生ガイダンス/4年次健康診断
	4日(木)	新入生ガイダンス/山中研修(新入生)
	5日(金)	山中研修(新入生)
	6日(土)	新入生歓迎祭
	8日(月)	前期授業開始
	11日(木)・12日(金)	2・3年次健康診断
	20日(土)	英語テスト(1年次アドバンス)
	29日(月・祝)	春のオープンキャンパス
5	30日(火)～5月2日(木)	ゴールデンウィーク休講
	25日(土)	保護者懇談会・稲友会総会

金沢星稜大学女子短期大学部

4	1日(月)	入学式
	2日(火)	新入生ガイダンス
	3日(水)	新入生ガイダンス
	4日(木)	新入生ガイダンス・2年次ガイダンス/健康診断
	5日(金)	Sei-Tan ACT! (100人カレー)
	8日(月)	前期授業開始
	20日(土)	新歓体育祭
	29日(月・祝)	春のオープンキャンパス
	30日(火)～5月2日(木)	ゴールデンウィーク休講
	22日(土)	秘書検定

星稜高等学校

4	6日(土)	始業式
	8日(月)	入学式
	9日(火)	新入生研修会
	16日(火)～19日(金)	内科検診
	20日(土)	身体計測
	23日(火)	遠足
	14日(火)～17日(金)	中間試験
5	17日(金)	総体・総文激励会
	18日(土)	P T A総会、保護者対象講演会
	24日(金)	避難訓練
	4日(火)～7日(金)	歯科検診
6	21日(金)	避難訓練予備日

星稜中学校

4	6日(土)	始業式
	8日(月)	入学式
	10日(水)	新入生研修会
	12日(金)	交通安全教室、自転車通学説明会
	23日(火)	遠足
5	14日(火)・15日(水)	中間試験
	18日(土)	PTA総会
	31日(金)・6月1日(土)	写生大会
6	14日(金)	県体激励会

金沢星稜大学附属星稜幼稚園

4	9日(火)	1学期始業式
	10日(水)～18日(木)	慣らし保育
	13日(土)	入園式
	24日(水)	進級・入園写真撮影
	25日(木)	誕生会
	30日(火)	保護者会総会
5	1日(水)・2日(木)	自由登園日
	13日(月)	親子バス遠足(予定)
	23日(木)・24日(金)	星稜子育てステーション
	30日(木)	誕生会・避難訓練(地震)
6	3日(月)	プール開き・教育実習開始
	4日(火)	歯科検診
	12日(水)	内科検診
	15日(土)	参観日
	19日(水)	アスレバル石川(年長)・内科検診
	25日(火)	星稜子育てステーション
	26日(水)	星稜子育てステーション
	27日(木)	誕生会
	28日(金)	教育実習最終日

金沢星稜大学附属星稜泉野幼稚園

4	9日(火)	1学期始業式
	13日(土)	入園式
	24日(水)	入園・進級写真撮影
	25日(木)	誕生会参観
	26日(金)	保護者会総会
5	8日(水)	にこにこ参観・クラス懇親会(つき組)
	9日(木)	にこにこ参観・クラス懇親会(ほし組)
	10日(金)	にこにこ参観・クラス懇親会(ばら組)
	13日(月)	にこにこ参観・クラス懇親会(すみれ組)
	14日(火)	内科検診
	15日(水)	にこにこ参観・クラス懇親会(りす組)
	16日(木)	にこにこ参観・クラス懇親会(うさぎ組)
	17日(金)	にこにこ参観・クラス懇親会(きりん組)
	23日(木)	親子バス遠足
	27日(月)	親子バス遠足(予備日)
6	28日(火)	内科検診
	30日(木)	誕生会参観
	3日(月)	教育実習開始
	5日(水)	歯科検診
	19日(水)	アスレバル石川2013
	20日(木)	アスレバル石川2013(予備日)
	27日(木)	誕生会参観
	28日(金)	教育実習最終日

あとがき

全国高校サッカー選手権でのサッカー部の皆さんの力強いプレーと、第三位という輝かしい成績は、学園だけでなく、全国に夢と希望と感動を与えてくれました。スポーツも勿論ですが、同じ学園で、ともに夢に向かって力を合わせてきた仲間と、いくつもの困難を乗り越え、自分の力を信じて歩んだかけがえのない時間は一生の宝物になるでしょう。三年前、泣きながら母親と登園したことも遠く四月からは一年生。真新しいランドセルを肩に、目を輝かせ笑顔いっぱいに登校する姿が目に浮かびます。こども達と出会えた事に感謝し、保護者の皆様と一緒に成長を見守る事ができた私共教師は幸いです。これから新しいスタートを切る皆さんに、心からエールを送ります。

附属星稜幼稚園 高島 裕子



学校法人 稲置学園

金沢星稜大学・金沢星稜大学女子短期大学部

石川県金沢市御所町10-1
TEL 076-253-3924 (代表)
〈大学〉<http://www.seiryo.jp>
〈短大〉<http://seitans.seiryo.ac.jp/>

星稜高等学校

石川県金沢市小坂町南206
TEL 076-252-2237 (代表)
<http://www.seiryo-hs.jp>

星稜中学校

石川県金沢市小坂町南206
TEL 076-252-2237 (代表)
<http://www.seiryo-hs.jp>

金沢星稜大学附属星稜幼稚園

石川県金沢市御所町東27
TEL 076-252-5057 (代表)
<http://kinder.seiryo.jp/seiryo/>

金沢星稜大学附属星稜泉野幼稚園

石川県金沢市泉野町6-17-30
TEL 076-244-5636 (代表)
<http://kinder.seiryo.jp/izumino/>